

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「観察ウォーキングと木の実のクラフト作り」

令和3年9月12日

- 1 実施日時 令和3年9月12日、10時から12まで
- 2 参加講師名 青野、小久保、杉山、高橋
担当者 青野、高橋
アシスト会員 小久保、杉山
- 3 参加者 2家族8人（大人4人、子ども4人）
- 4 概要

コロナの緊急宣言が出されていることもあり、「森の泉」は入室不可、午前中で終了とのことと、午後予定の工作は中止にして、森の散策のみを行った。申し込みは30人以上あったようですが、抽選で6家族22人に絞りました。しかし、事前に1家族がキャンセルし、当日になって少し雨が降ってきたせいか、更に3家族がキャンセルし、2家族のみの参加となりました。各1家族2班に分かれ、それぞれ2人のインストラクターが案内、観察ウォークをしました。

第1班は両親と幼児の女の子2名の4人家族で、高山市民の森が初めてということなので、池周辺の植物を、香り体験も含めて観察しました。香り体験では、ミズメの湿布の香り、クロモジやシキミの少し甘い香りを楽しみました。クロモジは、この香り成分を含む精油をアロマオイルとして、また、材を和菓子の爪楊枝として利用していることを説明しました。同時にシキミやミヤマシキミは強い毒をもつことから注意すべき植物であることを覚えてもらいました。クリや新芽がおいしいタラノキ、漢方薬の黄檗として胃薬に使われているキハダの黄色い内樹皮を見てもらいました。説明中にカモシカが近くに現れましたが、子ども達はすっかり慣れた様子でした。シイタケとなめこの榎木場を見てもらい、どうしてシイタケの方にだけネットがかけられているか？を質問したところ「サルに食べられないように。」と答えてくれました。きれいに咲くヤマジノホトギスやキンミズヒキ、ミズヒキを子ども達は採りたがっていました。キンミズヒキとミズヒキを採ってお母さんにプレゼントしていました。変わったところで、シロソーマンタケが生えていました。その名のとおり、ソーマンみたいです。よほどたくさん採らなければ、お腹一杯にはならないのです。この後、中間展望台へ頑張っで登り、おやつタイムとしました。しばらく休んでから下山、高山の池へ。池のオタマジャクシは多いけれどもイモリの姿が見えません。数が減ったようです。森の恵みへ戻り、時間があつたので、木の実のアクセサリーの一部作業をしながら、もう一家族の帰りを待ちました。

第2班は両親と4歳と0歳の男児2名の4人家族で、高山市民の森は2回目だが、頂上には行っていないとのことだったので、頂上を目指すことにしました。出発前に栗の実とタラノキの花を観察し、モリアオガエルのオタマジャクシも見てもらいました。駐車場から池には下りずに横道を行き、頂上への道を登りました。登りの途中でミツマタの各枝が三つに分かれていることを観察してもらいました。急な上り坂では途中給水タイムをとったのみで、ひたすら登りを頑張りました。林道に出る手前で、クロモジの甘い香りを楽しみ、材は和菓子の爪楊枝として利用していることを説明しました。頂上に向かう尾根ではサンショウの香りをかいてもらいました。頂上はあいにく霧に包まれ、富士山も静岡の市街地も全く見えませんでした。ほかに二家族がハイキングに来ていました。下りの途中では林道上に仕掛けた

定点カメラに鹿の様子が写っているのを、市の担当者から見せてもらいました。日本鹿は、個体数はそれほどふえていないものの生息域は広がっていると聞きます。ここから山道を下りましたが、ツル lindウとヤマジノホトギスの花を観察し、スギやヒノキの幼木がたくさん育っているところも観察してもらいました。「森の恵み」へ到着する寸前から雨が降り始めましたが、濡れる前に到着できました。「森の恵み」へ戻り、本来なら木の実のアクセサリー作りに使うはずだった見本の作品と材料の木の実を持って帰ってもらいました。

以上



